

資料と公共性 : 2021年度研究成果年次報告書

岡崎, 敦

九州大学大学院人文科学研究院 : 教授

池上, 大祐

琉球大学国際地域創造学部 : 准教授

今井, 宏昌

九州大学大学院人文科学研究院 : 専任講師

多川, 孝央

九州大学情報基盤研究開発センター : 准教授

他

<https://doi.org/10.15017/4772780>

出版情報 : 2020-03-07. 九州大学大学院人文科学研究院

バージョン :

権利関係 :

1. シンポジウム「遠隔から考え直す歴史教育実践」 (九州西洋史学会 2021 年度春季大会)

日程：2021 年 4 月 17 日（土）14 時~17 時

会場：Webex オンライン開催

プログラム

岡崎 敦「趣旨説明」

池上大祐「オンデマンド型講義による歴史教育実践

—能動的な学びをどう確保するか—

今井宏昌「遠隔がつなく高大連携

—コロナ禍におけるグローバルな歴史実践をめざして—

多川孝央「『遠隔』から考え直す学習とコミュニケーション」

総合討論

「遠隔から考え直す歴史教育実践」を共通テーマとするこのシンポジウムは、九州西洋史学会が、九州歴史科学研究会の共催、高大連携歴史教育研究会の後援で、主催開催したものである。Webex を利用した全面オンラインにより、全国から多数の参加者をえて開催された。当日は、企画者である岡崎の「趣旨説明」ののち、3 名の報告者により多様な論点が提示され、総合討論では活発な議論が展開された。

コロナ禍のなか、対面授業が困難となった大学教育において、多様な遠隔授業の試みが展開された。本シンポジウムでは、この間なされた試みとともに振り返るとともに、情報技術を積極的に用いたあらたな歴史教育の可能性を再検討した。

このシンポジウムには、本共同研究関係者が複数、企画段階から当日の報告に至るまで関与した一方、その内容のより詳細なかたちでの公開を望む声が寄せられた。登壇者の方々には、あらためて共同研究の成果の一部としてご寄稿を依頼し、快諾をえたことから、ここにその内容を公表するものである。

池上大祐氏は、アメリカ現代史を専門とする歴史学研究者であるとともに、高大連携歴史教育研究会、「地域から考える世界史」プロジェクト、琉球沖縄歴史学会の運営などに関わりながら、地域・「日本」・世界を統一的に把握する方法を模索している気鋭の研究者である。『遠隔でつくる人文社会学知』（雷音出版、2021 年）の執筆者の一人でもある。ドイツ現代史専攻の今井宏昌氏は、共同研究メンバーの一人でもあり、近年は、第一次世界大戦時に久留米に設けられたドイツ兵俘虜収容所を地域社会との関係で再検討する研究も続行している。高大連携や遠隔教育の試みにも積極的で、前記『遠隔でつくる人文社会

学知』にも寄稿している。多川孝央氏は、情報学研究者として、特に、eラーニング、情報科学的手法による学習過程の分析、情報技術による教育支援等の ICT による教育支援についての諸課題に取り組んでおられる。単に遠隔教育技術にとどまらず、情報学ベースの学際大学院であるライブラリーサイエンス専攻の専任教員として、情報技術が社会全体を深く変容させる DX 時代のあらたな教育のあり方について発言なさっている。今回のテーマにとって不可欠の領域から、特に登壇をお願いした。

以下は、当日の報告をもとにしながら、各報告者があらたに書き下ろしたものである。